

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 6 月 24 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程 2 年
氏 名	小林 宜弘

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
日本、熊本県	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
熊本サンクチュアリ実習	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 26 年 6 月 17 日 ~ 平成 26 年 6 月 20 日 (4 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学野生動物研究センター 熊本サンクチュアリ、平田聡教授	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の実習の目的は、チンパンジーとボノボを対象とした認知実験や行動観察を通して、比較認知科学研究のための基礎を学ぶことであった。実習は、6月17日から20日までの4日間行われた。</p> <p>認知実験では、実習参加者とチンパンジーを対象としたタッチパネルを使った認知課題とアイトラッカーを使った視線計測を行った。結果、チンパンジーが瞬間記憶能力に優れているが、我慢するという点に欠けていることを知った。</p> <p>ボノボの観察では、対象個体としてヨシキという名前のオスのボノボを選んだ。骨折を経験したボノボが、普段の生活でどのような支障をきたしているのか気になったことが、観察の対象として選んだ理由である。観察結果として、ヨシキは地面歩行時には骨折した方の足をかばう仕草が見られたものの、日常生活において特に問題なく過ごしていることが確認できた。また同じ大型ケージ内にいたメスのボノボ、ヤスコに餌を独占される様子が観察された。これはボノボがメス中心の集団を作るためと思われ、餌をヤスコに横取りされたヨシキが抵抗を見せることはなかった。</p> <p>エンリッチメントの一環として行われたブラック群の誕生会では、ヨシエを対象とした観察を行った。ヨシエは前日に行ったブラック群の個体識別の時点から「タワーの同じところに居座る」、「口をブーブー言わず」、「指で目をおさえる」といった、他のブラック群個体とは変わった行動をとっていたのでとても興味を持っていた。今回の観察において、ヨシエがブラック群の誕生会で他の個体との接触を避ける動向が確認された。また他の個体が食事をしている間、離れたところで待機するという行動が目立った。その後他の個体が食事を終わると、残餌を後から拾い食いする様子が見られた。ヨシエは群れの中で低い階級に位置しているため、群れに混ざってともに行動することを避けているように感じられた。</p> <p>今回この熊本サンクチュアリ実習で行ったことは、とてもいい経験となった。今後自分が研究を行っていく上で、今回経験したことを生かしていきたい。</p>	
	<p>図 タワーの上に常在するヨシエ</p>
6. その他 (特記事項など)	

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

認知実験や行動観察の手技をご教授くださった平田聡さんと森村成樹さん、その他実習に協力をしていただいた熊本サンクチュアリのスタッフの方々及び支援してくださった PWS の方々に感謝します。